



## 特別展示 mikkyoz013

2019年1月16日(水) - 27日(日)

月曜休館 9:00 - 21:00

(1/16-20は18:00まで)

観覧無料

砂丘館ギャラリー(蔵)

mikkyoz  
le+遠藤龍  
2009年より映像、音響を用いた展示とライブパフォーマンスを中心に活動。  
www.mikkyoz.com

主催 砂丘館

1970年前後に登場した「もの派」の美術家たちは、未加工の石や木などを「作品」として提示した。ひとりには、それを「ほこり(ものに貼りついた意味)を払う」ことだと語り、そのようなものの光景を、前にすることを、別のひとりには「ながめ・る」と表現した。意思をもって観察、点検する「見る」とは違う、それは見る、だというのだ。そのとき、ものたちは「放置された」状態であられる、という。mikkyozの映像と音は、そんな「放置された」「もの」たちをストイックに「ながめ・る」経験(実験)から出発したかのように見える。意味から、かぎりなく遠い地点から始まった旅は、回を重ねるごとに、「ながめ・る」時間を深め、広げ、純化してきた。

2018年のmikkyozは、原子力発電所が、ひよとしたり今存在していたかも知れない旧巻町の角海浜にカメラを置き、草を、水を、石を、崩れた砂を、空を映した。また各地の原発近傍で撮られた写真が展示された。音は初めて、作られたのではない、その場の音を呼吸した。

「放置された」ものたちの空間に、痛烈な「意味」が、ほこりが、降った。けれどそのほこりは、写された即物的な光景をおおうことはなく、蔵は意味自体をも、まるで初雪の一片のように「ながめ・る」場に変容した。これは、注目するべきことだ。2019年。また、ま新しいmikkyozの季節がめぐってきた。

大倉宏

## 砂丘館

旧日本銀行新潟支店長役宅

〒951-8104 新潟市中央区西大畑町5218-1

tel./fax. 025-222-2676

sakyukan@bz03.plala.or.jp

指定管理者:新潟絵屋・新潟ビルサービス特定共同企業体



会場には駐車場がありません。また、周辺の道路は駐車禁止です。公共交通機関をご利用下さい。  
●新潟駅からのバス:浜浦町線 C2系統又は観光循環バス「西大畑坂上」バス停下車徒歩1分  
●新潟市西堀地下駐車場をご利用の方は、駐車券掲示にて1時間分の無料券を差し上げます。

私たちは砂丘館の自主事業を  
応援しています。

愛国ありれ 株式会社

NSGグループ

株式会社ナレッジライフ

ISHIKAWA

新潟ビルサービス

創業明治11年  
丸屋本店

藤田金属

郷土の文化に親しむ会